

第2節 酸性雨*対策の推進

現況

環境省が実施した平成15～平成19年度の酸性雨調査結果によれば、全国の測定地点における5年間の降水pHの全平均値は4.68であり、全国的に欧米並みの酸性雨が観測されています。一方で、酸性雨に起因する広範囲の植生衰退は認められず、生態系への被害が顕在化しているとはいえないと報告されています。但し、現在のような酸性雨が今後も降り続くとすれば、将来、酸性雨による影響が顕在化する可能性も指摘されています。

※一般的にはpH5.6以下の雨をいう。

課題

酸性雨による影響は、長期継続的なモニタリング結果によらなければ把握しにくいとして、国では長期モニタリングの着実な実施と東アジア酸性雨モニタリングネットワークを通じた調査研究の普及等を今後の課題としていますが、本県としても継続的な調査実施とともに国や海外との情報交換の場に参加していくことが必要です。

取組

県内の酸性雨の状況を把握するため、平成元年度から4地点(八代市、宇土市*、阿蘇市、苓北町)で雨水のpH等の調査を行っています。平成23年度の調査結果では、各地点の年平均値は酸性雨の目安であるpH5.6を下回っています。

また、各地点のpH月平均値についても、ほぼ全ての月でpH5.6を下回っており、県下各地点で酸性雨が観測されています。

現在、九州・沖縄・山口の各県と酸性雨に関する共同調査研究を実施し、原因の解明を行うとともに、全国環境会議協議会において情報共有を行い、広域的な酸性雨の調査に参加しています。※平成20年4月に人吉市より移設。

表 4-2-1 H23 酸性雨調査結果(pH 年平均値)

	H.23
八代市	4.77
苓北町	4.71
阿蘇市	4.81
宇土市	4.71